

平成 24 年度事業報告

活動の概況

平成 24 年度の活動の中心は、東日本大震災で発生した霞ヶ浦放射能汚染への対応となりました。平成 24 年度総会では常陸川水門の順流操作による放流移染対策案を提案し、各団体と協議するなどして解決をめざしました。しかし、下流への影響等に問題が残り、地域の合意を得ることはできず、実施にはいたっていません。放射能汚染の実態調査等にも精力的に取り組んだところです。

私たちの団体の主たる活動の一つは問題解決をめざす環境教育の実施です。この基本方針にそって眼前の霞ヶ浦放射能汚染解決のための環境教育講座「問題解決のための討論会」も 2 回にわたって開催しました。

定期連続講座では、放射能汚染に関する最新情報と霞ヶ浦の歴史に関するテーマを中心に、ウナギ絶滅危惧種指定などホットな環境問題をとりあげました。

「生き物アカデミー」の活動では、毎月の定置網の魚類調査を継続し、霞ヶ浦の魚たちの動きを追跡してきました。夏季以降はアオコ調査を中心に沖帯・湖岸帯の水質観測を行い、それらの成果を話し合い問題解決の方法について検討しました。

以上が活動の概況ですが、活動の中心は放射能問題となりました。活動が活発になるにしたがって報道にも取り上げられるところとなりましたが、このことが漁業への風評被害を引き起こしているとの苦情も寄せられ、今後の活動の進め方の再検討などを余儀なくされている状況が生じています。

1 生き物アカデミー

毎月一回、小学生を対象に霞ヶ浦湖岸で観察会等を行いました。各回の内容は以下のとおりです。また、開催時には毎回、霞ヶ浦湖岸に設置した定置網で魚類種組成の調査を行いました。一年間の参加者総数は 674 名。

4 月	15 日	フナの産卵を観察する 人工藻場の産卵状態を観る
5 月	20 日	定置網の魚類観察、湖岸で魚とりをする 午後霞ヶ浦環境科学センターへ移動、生き物アカデミー公开发表会
6 月	17 日	外来魚を調べる
7 月	15 日	里山を探検する
8 月	19 日	湖岸の水質を調べる
9 月	16 日	釣りで護岸をしらべる
10 月	21 日	釣りで沖を調べる
11 月	18 日	沖の水質を調べる

- 1 2月16日 霞ヶ浦の再生について討論する
- 1月 20日 湖岸の野鳥の分布を調べる
- 2月 17日 身近な環境問題を解決する
- 3月 17日 フナの産卵を調べる I

2 霞ヶ浦定期連続増座

毎月1回 霞ヶ浦や環境問題に関する講座を開催した。参加者総数は、270名。

第41回	4月15日	中世の霞ヶ浦	千葉 隆司
第42回	5月20日	放射能汚染を考える	原田 泰
第43回	6月17日	霞ヶ浦外来魚の動向を追う	菊地 章雄
第44回	7月15日	霞ヶ浦のトンボは、どこへ行った	廣瀬 誠
第45回	8月19日	霞ヶ浦化学物質汚染史	浜田 篤信
第46回	9月17日	霞ヶ浦放射能除染の最前線	佐々木克典
第47回	10月21日	徹底討論、霞ヶ浦放射能汚染	原田 泰
第48回	11月18日	茨城県の水事情	西原昇治
第49回	12月16日	中世の霞ヶ浦Ⅱ 西大寺律宗と忍性	千葉 隆司
第50回	1月20日	どうする、霞ヶ浦導水事業	浜田 篤信
第51回	2月17日	ウナギ、絶滅危惧種に指定！	浜田 篤信
第52回	3月27日	天保の水行直しの真実にせまる	栗原 亮

3 調査研究

(1) 自然の調査研究

① 底泥および魚類の放射能（セシウム134,137）調査

底泥調査2回、魚類調査5回

会報「海夫通信」13号で一部公表、各研究会で口頭発表、常陽新聞（H24年5月21日）、雑誌「世界」H24年8月号に一部紹介された。

② アオコ復活原因解明

③ ウナギ資源調査

東京新聞（H25年4月7日）の特報で紹介された。

(2) 社会の調査研究

① 東日本大震災と霞ヶ浦

東日本大震災の霞ヶ浦流域社会に及ぼす影響や今後の展望等について研究を行い、その成果を講演、会報、研究報告で発表しました。

② 霞ヶ浦の放射能汚染の構造解析研究

茨城大学農学部の放射能シンポジウム（H24年7月30日）、市民モニタリング報告会（H24年12月8日）で、調査結果および霞ヶ浦放射能汚染対策案を口頭発表した。

4 環境教育講座

霞ヶ浦の放射能問題をテーマに問題解決をめざす参加体験型環境教育講座を2回(5月20日、10月21日)開催した。その内容を会報海夫通信13号に掲載した。

5 会報の発行

「海夫通信」第13号を発行しました。

6 その他

環境保全や地域振興関係のシンポジウム、調査研究、広報等の活動に参加しました。今年3月22日にはエコーいばらき環境保全基金授与式に参加し、市民による環境保全活動について委員の方々、他の市民団体4団体の方々と意見交換を行いました。行方市開発公社と共催で霞ヶ浦夏休み教室を8月25日に開催しましたが、企画・広報や参加者の確保等に課題が残りました。

7 理事会・総会

(1) 総会 平成24年5月15日 16:00~16:45

開催場所：霞ヶ浦環境科学センター多目的ホール 出席者数10名、表決委任10名
事業報告・会計報告、事業計画および予算について質疑・承認

(2) 理事会および協議会

第1回	4月15日16:00~17:00	事業計画、総会
第2回	5月20日17:30~18:20	前期の事業、他団体との協力、会報
第3回	6月17日16:00~18:00	7月のイベント、東日本大震災、
第4回	7月15日16:00~17:30	東日本大震災、連続講座の進め方
第5回	8月19日16:30~18:00	9~12月の行事の進め方
第6回	9月17日16:00~17:20	講座計画、放射能問題対応
第7回	10月21日16:00~17:00	講座計画、放射能問題対応(外部発表)
第8回	11月18日16:00~17:30	環境教育、講座のテーマ
第9回	12月16日16:00~17:50	次年度事業計画
第10回	1月20日16:00~17:00	水郷水都霞ヶ浦大会、講座計画
第11回	2月17日16:00~18:00	水郷水都霞ヶ浦大会、講座計画、ウナギ 問題対応
第12回	3月17日16:00~17:45	次年度事業計画(含む水郷水都)、放射 能調査、

平成24年度決算書

特定非営利活動に係る事業

収入の部

費目	予算額(円)	決算額(円)	増減(円)
繰越金	163,989	163,989	0
会費等	150,000	73,000	△ 77,000
事業収入	50,000	0	△ 50,000
寄付金	250,000	200,000	△ 50,000
助成金	500,000	550,000	50,000
その他事業の収入	50,000	0	△ 50,000
雑集	1,000	17	△ 983
	1,164,989	987,006	△ 177,983

支出の部

費目	予算額(円)	決算額(円)	増減(円)
事業費	750,000	338,980	△ 411,020
会議費	50,000	6,600	△ 43,400
報償費	400,000	235,000	△ 165,000
消耗品	200,000	64,070	△ 135,930
印刷費	100,000	33,310	△ 66,690
管理費	414,989	334,156	△ 80,833
旅費	100,000	177,682	77,682
事務費	100,000	99,934	△ 66
通信運搬費	80,000	41,540	△ 38,460
会費	20,000	15,000	△ 5,000
予備費	114,989	0	△ 114,989
合計	1,164,989	673,136	△ 491,853

次年度繰越金	302,979
普通預金	308,735
郵便振替	37,760
現金	82,456
未払金	125,972

その他の事業

収入の部

費 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増 減 (円)
事業費	500,000	0	△ 500,000
合計	500,000	0	△ 500,000

支出の部

費 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増 減
事務費	400,000	0	△ 400,000
非営利活動繰入	50,000	0	△ 50,000
次年度繰越金	50,000	0	△ 50,000
合計	500,000	0	△ 500,000

以上、報告します。

平成25年5月20日
非営利活動法人霞ヶ浦アカデミー
理事長 荒井 一美

報告第3号

平成24年度監査報告

平成23度における会計書類、帳簿、証拠書類および現金、預金を監査した結果、適正に処理されていたことを認めます。

平成24年5月20日

平成 25 年度事業計画 (案)

基本方針

東日本大震災から 2 年が経過し大災害が風化しつつある一方で、解決すべき問題も明確になってきました。従来のエネルギーや水資源の開発管理の見直し等の持続可能な社会を、どのように達成するのか、話し合いの場や方法をどのようにすればよいか、基本的に重要な問題と考えられます。このことを足もとの霞ヶ浦で具体的に実行することが私たちの課題です。

平安時代から継承してきた漁業技術や文化を継承するために、放射能問題の解決をめざす活動を行います。それと同時に水資源と食糧生産の両立を可能にする水系の管理についても研究をすすめます。

環境教育については、問題解決型環境教育講座を開催しますが、行政、教育現場との連携を重視しわかりやすく具体的な内容として生まれ変わった講座を準備します。

「霞ヶ浦定期連続講座」は、新年度には 5 3 回目を迎え中世および江戸時代の霞ヶ浦史、霞ヶ浦の環境問題、漁業問題等についてより充実させて開催します。

「生き物アカデミー」活動では、魚の採集調査を継続しますが、魚類と水質の関係を重視し、水質・調査環境等の調査をし、その生物に対する影響について検討します。

理事会等の運営

会員、他団体との連携を重視し、開かれた運営をめざします。理事会等の会議は、オープンとし会員のオブザーバー参加もできます。調査研究等の各プロジェクト活動は自由参加とし公募して行います。

特定非営利活動に係る事業

- 1 生き物アカデミー講座開催 年 1 2 回実施
霞ヶ浦における観察会を中心に魚類の採集や調査を行うと同時に、大きく変わりつつある霞ヶ浦の生態系に焦点を当てて調査研究を行います。
- 2 環境教育指導者養成講座開催 年 2 回開催
霞ヶ浦で発生する環境問題の解決に資する参加体験型環境教育講座を開催します。
- 3 霞ヶ浦定期連続講演会 年 1 2 回開催
平成 20 年 11 月以来 52 回にわたって毎月一回開催してきた講座を、霞ヶ浦の環境、生物、歴史、開発等に関係するテーマについて継続実施します。
- 4 水郷水都全国会議
第 29 回霞ヶ浦大会を 10 月に実行委員会方式で開催します。実行委員会の中心となって霞ヶ浦の再興に資する大会運営をめざします。
- 6 調査研究事業
 - (1) 霞ヶ浦放射能汚染調査

エコーいばらき環境保全基金助成事業として採択されました。底泥や魚類の放射能調査、魚類への影響、放射能汚染の社会的影響について調査を実施します。

(2) 社会の調査研究

東日本大震災を踏まえた持続可能な地域社会での開発・管理について研究を進めます。霞ヶ浦における津社会の興亡等を中心に、霞ヶ浦流域社会の成り立ち、構造変化について調査を実施します。

(3) 自然の調査研究

大きく変わりつつある霞ヶ浦生態系について情報収集を行うと同時に、変動原因を解明します。

(4) 定例調査

霞ヶ浦魚類調査および水質調査を継続して行います。

7 広報事業

会報の発行・ホームページによる情報公開の一層の充実をはかります。

その他の事業

調査研究の受託 水質や生物調査、水質調査等について受注します。

議案第 2 号

平成 2 5 度予算書 (案)

特定非営利活動

収入の部

費 目	前年度決算額 (円)	予算額 (円)	増 減
前年度繰越金	163,989	302,979	138,990
入会金・会費	73,000	100,000	27,000
事業費	0	50,000	50,000
寄付金	200,000	300,000	100,000
助成金	550,000	500,000	△ 50,000
その他事業から	0	50,000	50,000
雑収	17	1,000	983
合計	987,006	1,303,979	316,973

支出の部

費 目	前年度決算額 (円)	予算額 (円)	増 減
(事業費)	333,560	720,000	386,440
会議費	6,600	20,000	13,400
報償費	235,000	450,000	215,000
消耗品費	64,070	150,000	85,930
印刷費	33,310	100,000	66,690
(管理費)	346,120	583,979	237,859
旅費	196,666	200,000	3,334
事務費	92,914	150,000	57,086
通信運搬費	41,540	100,000	58,460
会費等	15,000	50,000	35,000
予備費	0	83,979	83,979
合計	679,680	1,303,979	624,299

その他の事業に係る事業

収入の部

費 目	前年度決算額 (円)	予算額 (円)	増 減 (円)
事業収入	0	500,000	500,000
合計	0	500,000	500,000

支出の部

費 目	前年度決算額 (円)	予算額 (円)	増 減 (円)
事務費	0	400,000	400,000
非営利活動事業繰入	0	50,000	50,000
次年度繰越金	0	50,000	50,000
合計	0	500,000	500,000